

2019年 6月 9日 《 聖 餐 式 》

主 日 礼 拝

①8時半 ②10時半 ③19時

司 会 ①石井師 ②石井 秀人兄 ③石井師

奏 楽
祈 禱 ①石井師 ②石井 洋子姉 ③石井師

賛 美 聖歌474番 & ～聖霊様あなたを求めます～

十 戒

聖 書

①ヨハネによる福音書14章12～18節

②コリント人への第二の手紙13章4～9節

特別賛美 聖歌隊有志 聖歌472番「人生の海の嵐に」

メッセージ

①「あなたのそばには、助け主がおられる」大川従道牧師

②「キリストが私の内におられる！」石井潤牧師

聖 餐 式

賛美「主イエスの十字架の血で」

献 金

賛美「明日はどんな日か」& ～ハレルヤ～

祝 禱

〔献金当番：青木姉・寺澤千姉〕

お知らせ

【司会者】

賛 美

～注ぎたまえ主よ～

礼拝にお越しくくださった皆様を心よりご歓迎いたします！
《今週のお知らせ》

1. 本日昼食後1時～、聖歌隊の練習が行われます。クリスマスの賛美に向けて…。
2. 今週の祈禱会：☆早天祈禱会、明日朝6時～。☆木曜午前10時半～、夜7時半～、メッセージは久保田豊先生(大和祈禱会映像)。☆準備祈禱会、土曜夜8時。
3. 土曜午後2時～、千曲市の小山姉宅にてバイブルスタディが行われます。
4. 来週日曜午後2時半～、上田文化会館にてゴスペルコンサートが行われます。

6/20(木):大手家庭集会 26(水):長野ランチョン(ポーマン師夫妻・10時半)

一年に一回聖書を完読できる！ Bible Reading Plan [6/9～/16]

Date	日		月		火		水		木		金		土		日	
旧約	歴代志下 29-31章		32・ 33章		34- 36章		エズラ 1・2章		3- 5章		6- 8章		9・ 10章		ネハミヤ 1-3章	
新約	ヨハネ18 :1-23		18:24 -40		19:1 -22		19:23 -42		20章		21章		使徒行伝 1章		2:1 -13	
チェック	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新

「キリストが私の内におられる！」

～人々をゆるし、仕える使命～

「私の古い自我は、キリストがゴルゴダの丘の上に立てられた十字架上で死なれた時、キリストと共に死んでしまった。もはや私め生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのである。…。」ガラテヤ人への手紙2章20節 [現代訳]

「神は、クリスチャンたちに、この奥義が、ユダヤ人以外のの人々にとっても、どんなにすばらしいものであるかということを知らせたいと思われた。その奥義とは、あなたがたクリスチャンのうちにおられるキリストであって、栄光に輝いた望みである。」

コロサイ人への手紙1章27節 [現代訳]

パウロはコリント教会のクリスチャンたちの信仰がきちんと成長して欲しいと強く願っていました。では、クリスチャンの信仰が成長するためにはどうしたらよいのでしょうか？ 私たちの人生の模範はイエス様です。クリスチャンは「Christ」+「-ian」＝「キリストに属する」という意味であり、「キリストのように生きる」のが私たちクリスチャンの目標です。では「キリストのように生きる」とはどのように生きることなのでしょうか？

イエス様は、十字架にかかれる前の夜、突然、たらいに水を入れ、手ぬぐいを持って、サンダルで外を歩いて埃だらけになっている弟子たちの足を順番に洗い始めました。主は「あなたがたは仕えられる者ではなく、仕える者となりなさい。」と語られました。そして、「互いに足を洗い合いなさい」と命じられました。それは、お互いの汚い部分を赦し受け入れ合いなさいということでした。それが、仕えるということであると。自分が受け入れたくない、触れたくない人々の嫌な部分に触れて、きれいにするということは本当に難しいことです。しかし、キリストのように生きるということはそういうことなのだと思えば、主は弟子たちに示されました。

イエス様は十字架の死からよみがえられて、弟子たちに現れたときに、彼らに息を吹きかけて「聖霊を受けよ！」と語られ、その直後に、「あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あなたがたがゆるさずにおく罪は、そのまま残るであろう。」と語られました。聖霊を受け、その後私たちが果たす使命は、罪のゆるしを与えることだということです。

「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ！」という福音宣教の宣言は、同時にゆるしの宣言でもあったということです。イエス様によって神の国が開かれた、与えられたということは、ゆるしの世界が開かれたということ。誰でもイエス様によってゆるされ、救われるという道が開かれた。そして、それは、即、私たちもすべての人間関係に対してゆるしを宣言していかなければならないということです。どんな時にも、どんな人にも私たちはゆるしを伝え、仕えていく使命が与えられているのです。